

うに郷通信

No.121
令和元年(2019)7月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

宇仁の朝市が開店 10周年を迎えます

宇仁の朝市は平成 21 年 7 月 5 日加西天然温泉「根田女」において立ち上げて以来、10 周年を迎えるはこびとなりました。2 月 16 日の神戸新聞で報道されたように今年の 2 月に通算 1,000 回目の開催も終わっています。

運営にあたっているスタッフでさえも「こんなに長く続くとは思わなかった」というほど粛々と継続できています。金・土曜夕方の準備、土・日曜の朝市開催とアオノゴルフへの持ち込み、そして生産者への支払いのための集計と銀行への入出金手続きなどで一連の作業が終了です。スタッフはこれらを生活のリズムとして取り込んでおり、年 1 回の休業週のときはゆっくりできるが何か張り合いがなくなる感覚に襲われます。

男性スタッフ 6 人は 10 才齢をとってまもなく平均年齢 72 才になります。後期高齢者もいます。酒を飲み交わしたときなどに、いつまでやれるかという話題がもちあがることもあります。「体力的にあと 5 年は行ける?、10 年は無理!、テントも老朽化しており新調したいが 10 年続ける自信はないし...」、結論的には体力の許す限り続けようという感じです。今後、ボランティア意欲のあるより若い方のスタッフとしての参加を期待しています。

男性スタッフ以外にも毎回交代でレジ担当をしている女性スタッフの存在も見逃せません。10 年の年輪を感じさせない若さ?とパワーで、豊富な話題で話がはずみ、愉快的な会話で笑いを誘い、時にはおいしい差し入れなど、女性スタッフがいと朝市の時間があつという間に楽しく過ぎ去ります。

また、支えていただいている近隣農家の皆さま、ご利用いただいている地域の皆さまのお陰もあって、10 年の長きにわたって継続できているものと感謝しています。

7 月 6 日(土)と 7 日(日)、お買い上げいただいたお客さまにささやかな 10 周年の記念品を用意しています。いきいきサロンやいこいの場としての活用を含め、地域の皆さまによるこんでもらえる朝市の継続を目指して、引き続きご支援とご協力ご利用をお願いします。(朝市部会)



宇仁の朝市主催超一流ブランド品フェアを開催します

宇仁の朝市は間もなく 10 周年を迎えます。特別企画として、地元出身者が経営する輸入卸商社(株)サンブランドとの合同企画で、世界の一流ブランド商品を超特価で販売する 2 日間限りのガレージフェアを昨年に引き続いて開催します。

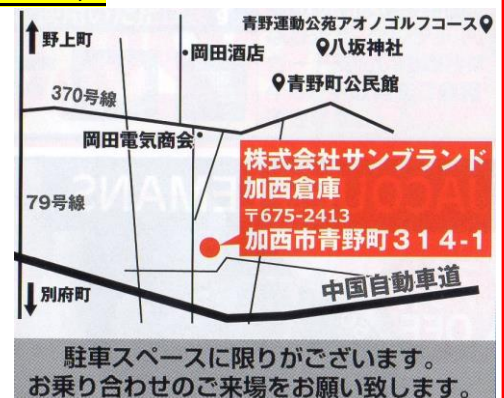
今回は超一流の高級品を含め世界の一流ブランドの数々を超特価で販売し、見て楽しい・買って満足企画になっています。数量限定の早いもの勝ちの品々です。詳細については朝市で配布のパンフレットをご覧ください。是非ご家族・友人お揃いでお越しください。ご不明なことあれば、ぽかぽか店や青野店で朝市スタッフにお問い合わせください。

日時：7月6日(土) 午前9:00~午後5:00

7月7日(日) 午前9:00~午後3:00

場所：宇仁の朝市青野店より約 300m南、(株)サンブランド加西倉庫(青野町 314-1)

(朝市部会)



宇仁郷歴史資料館・吉田省三記念文庫をたずねて

今日が吉田省三記念文庫の開館初日であることにふと気が付き、お昼前にフラッと訪れてみた。

ドアを開けるとすぐに受付があり、回りはぐるりとフリーの歴史資料の展示場になっていた。郷土の歴史に関する資料や説明が常設されていて、それ自体非常に興味深く感じられる。

しかし、今日の関心は文庫の本。展示室の奥の一角に入り口があり、足を踏み入ると限られたスペースではあるけれど、本棚が何列も並べられ、その中には見事に分類・整理された文学や歴史書が所せましと収められていた。その量は 6,400 冊に及ぶらしい。その本の質と保管状態も圧巻だ！

これがすべて個人の蔵書であったこと自体に驚かされる。文学はもとより国内外の歴史に興味のある方には、宝の部屋となるだろう！ 私もここに一週間缶詰めになってもいいかな…？と感じた。これは、宇仁の郷にとって、間違いなく一つの財産だ！

退館の時、ふと思ひめぐった。ここには 6,400 冊の吉田省三文庫がある。おそらく各家庭には三二〇〇文庫が存在するのだろう。もしそれらが繋がること、その時があるとするならば、それはかけがえのない“宇仁記念文庫”になるだろうと。

追伸 もう少しスペースがあったらなあ…。



吉田省三記念文庫の一部

(国正町区長 民輪聡宏)

「令和のホタル」初飛行



今年も、6月8日と9日の両日に油谷町・田谷町の高月橋や大歳神社周辺でのホタル観察を行いました。2日間で49人の参加でした。8日には40匹前後の確認ができましたが、2日目は少なめでした。日々天候の加減で変化があり、楽しいところでもあります。

今年の特徴は高月橋の西側に、中盤は大歳神社周辺に飛翔が見られました。このあたりには国正町の黒崎忠彦さんのご協力で、幼虫の餌になるカワニナの放流を続けています。さらに、川の水質や川床の状態、卵を産む環境、さなぎになる環境などホタルの生息しやすい場所にしたいものです。

まずは、令和元年を「油谷川清掃元年」に。(里山ふれあいの森部会 油谷川ホタル再生プロジェクト)

宇仁郷歴史資料館だより ④-16 近・現在の宇仁郷

(19) 昭和の宇仁小学校建設

昭和4年(1929)、西3教室、東2教室と小使室を改築、昭和8年(1933)には運動場を拡張。昭和15年(1940)二宮尊徳銅像を建立し教育環境も徐々に整ってきました。昭和16年(1941)太平洋戦争が勃発、学徒動員令の発布、運動場を掘り返し食糧増産に励みましたが、昭和20年(1945)広島・長崎に原爆が投下され8月15日終戦を迎えました。昭和21年(1946)日本国憲法の布告、昭和22年(1947)教育基本法が公布され6・3・3・4年制教育がスタートしました。

生徒数は徐々に増え、昭和31年(1956)入学児童が63人となり、在校生も300人を超えるようになりました。校舎増築の要望書を泉町長に提出しましたが、敷地の狭隘から八王子神社の表参道を閉鎖し参道の迂回を余儀なくされ、八王子神社総代会は児童教育のため表参道閉鎖という苦渋の選択をしました。

昭和33年(1958)国正の民輪政洋翁が新校舎建設実行委員長になり、昭和34年(1959)木造2階建の校舎の落成式を迎えることが出来ました。

運動場の拡張、正面前道路の改修、魚類飼育場、小鳥小屋、藤棚も完成しました。新校舎建設中、1年生は保育園、2、3、4年生は講堂、5、6年生は奥山寺で学びました。



旧校舎

開館日 毎日曜日9時30分～12時